

アイリブ訪問看護ステーション

高根沢町宝右台2丁目1の1 アデーラ棟



施設のアピール

アイリブ訪問看護ステーションは、令和3年5月に開設された精神科特化型のステーションです。合同会社リビングアーティストが母体となり、スタッフは看護師3名で運営しています。グループホーム「アイリブとちぎ」に併設されたステーションで、入居されている精神・知的障害をお持ちの方の医療的なサポートを強化するため、訪問看護を立ち上げました。

グループホームでのノウハウを活かしながら、24時間対応体制加算を算定できるステーションとして、「何かあったらすぐ来てくれる」安心を提供しています。



左：訪問看護ステーション管理者の牧野さん（Ns）
右：アイリブとちぎ副代表の日高さん（OT）

連携している主な医療機関

精神科医療機関では佐藤病院、岡本台病院、烏山台病院等、精神科以外では高根沢中央病院、宇都宮東病院、関根クリニック、長嶋歯科医院等近隣の医療機関と連携を図っています。

障害を持つ方の生活を包括的に支えるためには、精神科だけでなく内科、歯科、皮膚科等様々な医療機関との連携が大切だと感じています。

施設の役割や特徴について

～ 障書を持った方が

～ 当り前に地域で暮らす～

高根沢町は、徒歩圏内にお店、病院、美容室などがあり、生活するのにちょうどいい街です。地域の方も温かく見守ってくださっていて、「おはよう。いってらっしゃい！」と声をかけてくれます。こつこつと地域で当たり前になるというところを地域の方にもっと発信したいと思っています。



地域に馴染む落ち着いた雰囲気の訪問看護ステーションです。

管理者

牧野 健一様

利用保険割合

医療保険：10割

心に残った患者さんとのエピソード

～ 長期入院されていた方への

～ 退院支援～

これまで精神科医療機関の看護師をされていた管理者の牧野さん。いつも病棟で「患者さん」を看護していましたが、退院しても再入院を繰り返す方もおり、以前からこの患者さんは地域でどんな生活をしているのだろうか、と関心を持っていました。

数年前に実際に精神障害を持った方が生き生きと地域で生活している姿を見る機会があり、これまで退院が難しいと思っていた患者さんも、もしかしら地域で生活できるのでは？と気が付きました。そして、もし自分にも地域で何かできるのであれば、地域で支える一員になりたいと思い、訪問看護の設立に携わりました。

そんな中、連携している精神科医療機関の強力なバックアップのもと、長期入院の患者さんの退院支援に関わる大きなチャレンジの機会をいただきました。

40年入院されていた方も今ではすっかり地域に馴染み、毎日楽しく働いて、仲間と笑って過ごしています。長期入院されていた方でも地域で暮らせるんだ、と自信につながりました。



合同会社リビングアーティストは、令和2年度「キラリと光るとちぎの企業」として栃木県知事から表彰されました！

地域で暮らし続けるために

これから課題だと思ふことは入居されている方の高齢化です。入居されている方が長く地域で暮らし続けるためにも、今のうちから地域包括支援センターなど高齢福祉分野との連携体制も築いていきたいと考えています。

併設のグループホームの各棟の名前は、ディズニーの「白雪姫と7人のこびと」と「リトルマーメイド」に出てくるキャラクターの名前（アクアータ等）から付けたんだとか。空き家を活用したグループホームは今後も増やしていく予定だそうです。

「その人の生活」を丸ごと支えながら、チャレンジする姿を見ていると、ついつい応援したくなりますね。（記者より）